

2016年 1 月31日 実施

平成27年度（第54回）
情 報 処 理 検 定 試 験
〈プログラミング部門〉
第 1 級 試 験 問 題

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで，試験問題に手を触れないでください。
2. 試験問題は 9 ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入します。
4. 【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】 は共通問題です。
5. 【7】 の問題は J a v a ・マクロ言語のいずれか一つを選択し，解答用紙の選択言語を ☐ で囲んでください。
6. 電卓などの計算用具は使用できません。
7. 筆記用具などの物品の貸借はできません。
8. 問題用紙の回収については監督者の指示にしたがってください。
9. 制限時間は60分です。

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

【1】 次の説明文に最も適した答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

1. システム開発において、プログラム言語を用いてコーディングから翻訳、テストランまでを行う工程。
2. ネットワーク上での盗聴やなりすましを防止するために、SSLなどを利用してデータを暗号化し、Webサーバとブラウザ間で通信を行う技術。
3. システムに障害が発生した際に継続して稼働させることを優先し、正常に稼働する部分でシステムを運用して被害を最小限にとどめる設計思想。
4. 異機種間のデータ通信を実現するために、プロトコルを機能別に7階層に分割したネットワーク設計指針。
5. 複数のモジュールを組み合わせたプログラムを、上位モジュールから順次結合しながら検証するテスト。

解答群

- | | | |
|--------------|------------|--------------|
| ア. 基本設計 | イ. Cookie | ウ. トップダウンテスト |
| エ. プログラミング | オ. フールプルーフ | カ. TCP/IP |
| キ. ボトムアップテスト | ク. HTTPS | ケ. デバイスドライバ |
| コ. OSI参照モデル | サ. VoIP | シ. フェールソフト |

【2】 次のA群の語句に最も関係の深い説明文をB群から選び、記号で答えなさい。

- <A群> 1. キャッシュメモリ 2. 安全性 3. グローバルIPアドレス
 4. ウォータフォールモデル 5. POPサーバ

<B群>

- システム開発をいくつかの工程に分割し、前の工程に戻らないことを前提として開発する手法。
- RASISが示す指標の一つで、システムの機密性が高く外部からの不正アクセスがされにくいこと。
- インターネットにおいて、クライアントが宛先に電子メールを送信するためのサーバ。
- 主記憶装置とハードディスク装置の処理速度の差を埋めるため、使用頻度の高いデータを一時的に保持する記憶装置。
- インターネットで通信を行うために必要な、コンピュータ機器に一意となるように割り当てられたアドレス。
- RASISが示す指標の一つで、システムの故障が発生しにくく安定して稼働すること。
- インターネットにおいて、クライアントが電子メールを受信するためのサーバ。
- 企業や学校などのLAN内部でのみ有効な、コンピュータ機器を識別するために割り当てられたアドレス。
- 主記憶装置とCPUの処理速度の差を埋めるため、使用頻度の高いデータを一時的に保持する記憶装置。
- 試作品を作成し、ユーザからの評価を受けながら改良を加えてシステムを開発する手法。

【3】 次の説明文に最も適した答えをア、イ、ウの中から選び、記号で答えなさい。

1. 2進数の00100110を2の補数で表したものを。
ア. 11011001 イ. 11011010 ウ. 11011011
2. 論理演算を表す手法としても利用される、複数の集合の関係を視覚的にわかりやすく表したものを。
ア. 論理回路 イ. スタック ウ. ベン図
3. コンピュータに処理の指示を出してから、実行結果の最初の応答が得られるまでの時間。
ア. レスポンスタイム イ. ターンアラウンドタイム ウ. スループット
4. ネットワークに直接接続し、ファイルサーバとしての機能を持つ大容量の補助記憶装置。
ア. NAT イ. NAS ウ. DMZ
5. 平均シーク時間が12ミリ秒、5,000回転／分のハードディスク装置の平均待ち時間を求めなさい。
ア. 18ミリ秒 イ. 24ミリ秒 ウ. 36ミリ秒

【 4 】 次の各問いに答えなさい。

問 1. 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(3)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

配列に記憶した数値を並べ替えてディスプレイに表示する。

処理条件

1. 配列 Ken に数値を記憶する。なお、データ件数は n 件である。

配列

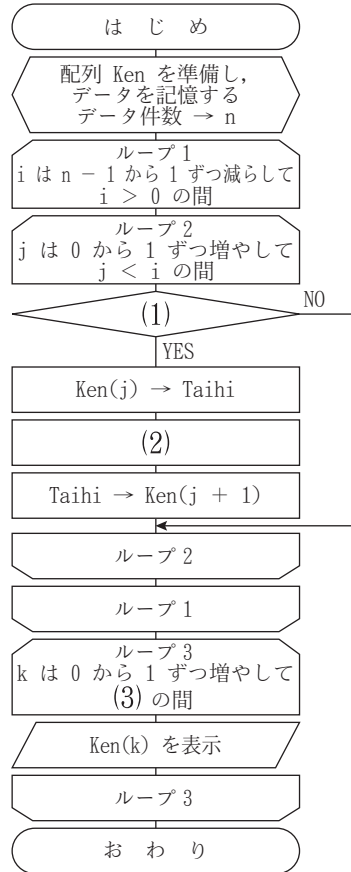
Ken	(0)	(1)	～	($n - 2$)	($n - 1$)
	23	78	～	45	164

2. 配列 Ken の数値を降順に並べ替える。
3. 並べ替えが終わったら、配列 Ken の内容を表示する。

解答群

- ア. $\text{Ken}(j + 1) \rightarrow \text{Ken}(j)$
 イ. $\text{Ken}(j) > \text{Ken}(j + 1)$
 ウ. $k < n$
 エ. $\text{Ken}(j) \rightarrow \text{Ken}(j + 1)$
 オ. $\text{Ken}(j) < \text{Ken}(j + 1)$
 カ. $k \leq n$

<流れ図>



問 2. 流れ図の説明を読んで、流れ図の(4)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

配列に記憶した文字列を探索してメッセージをディスプレイに表示する。

処理条件

1. 配列 Cod に文字列を昇順に記憶する。なお、データ件数は n 件であり、同じ文字列はないものとする。

配列

Cod	(0)	(1)	～	($n - 1$)	(n)
		A101	～	R203	Y113

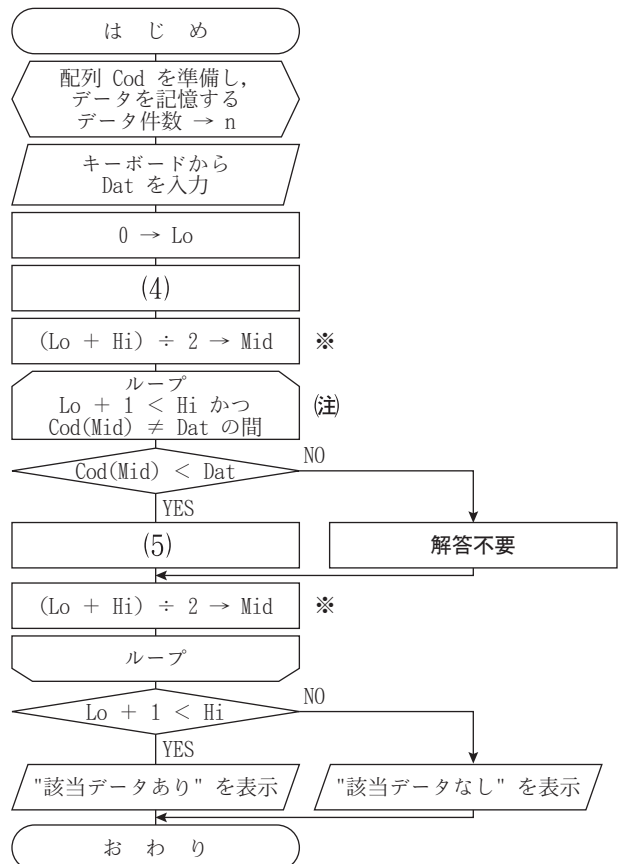
2. キーボードから入力した文字列をもとに配列 Cod を探索し、見つかった場合は 該当データあり を、見つからなかった場合は 該当データなし を表示する。

解答群

- ア. $n \rightarrow \text{Hi}$
 イ. $\text{Mid} \rightarrow \text{Lo}$
 ウ. $\text{Mid} \rightarrow \text{Hi}$
 エ. $n + 1 \rightarrow \text{Hi}$

(注) 条件式が「かつ」で複合されている場合、先に記述された条件式が偽になった時点で、判定を終了する。

<流れ図>



※ 小数点以下切り捨て

【5】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

ある空港の国際線の運航データを読み、国際線離発着実績一覧をディスプレイに表示する。

入力データ

エリアコード (Ecod)	都市コード (Tcod)	旅客数 (Rsu)	定員 (Teiin)
×	×	×	×

(第1図)

実行結果

(国際線離発着実績一覧)				
(エリア名と都市名)	(便数)	(旅客数計)	(利用率(%))	(1便あたりの空席距離)(備考)
アジア				
北京	30	6,241	83.2	86,633
香港	30	7,919	88.0	105,552
ジャカルタ	25	4,775	76.4	342,849
ムンバイ	25	4,252	68.0	535,778
(旅客数合計)		100,714		▼
南北アメリカ				
トロント	30	7,652	85.0	454,520
ボストン	25	5,098	81.6	507,794
マイアミ	25	5,690	91.0	263,780
メキシコシティ	30	6,365	86.6	361,216
(旅客数合計)		91,172		

(第2図)

処理条件

- 第1図のデータは、エリアコード、都市コードの昇順に記録されている。なお、エリアコードは1～5、都市コードは1～50である。
- 配列 Emei にエリア名を記憶する。なお、Emei の添字はエリアコードと対応している。

配列

Emei	(0)	(1)	～	(5)
		アジア	～	オセアニア

- 配列 Tmei に都市名を、配列 Kyori に各都市までの距離(キロメートル)を記憶する。なお、Tmei, Kyori の各添字は都市コードと対応している。

配列

Tmei	(0)	(1)	～	(50)
		北京	～	シドニー
Kyori	(0)	(1)	～	(50)
		2113	～	7820

- 第1図の入力データを読み、次の処理を行う。
 - エリアごとの1行目にエリア名を表示する。
 - 都市別便数、旅客数計、定員計を集計する。
 - 都市が変わるごとに利用率(%)と1便あたりの空席距離を次の計算式で求め、第2図のように表示する。なお、1便あたりの空席距離が500000以上の場合、備考に▼を表示する。

$$\text{利用率(\%)} = \text{旅客数計} \times 100 \div \text{定員計}$$

$$\text{1便あたりの空席数} = (\text{定員計} - \text{旅客数計}) \div \text{便数}$$

(小数点以下切り捨て)

$$\text{1便あたりの空席距離} = \text{1便あたりの空席数} \times \text{距離}$$

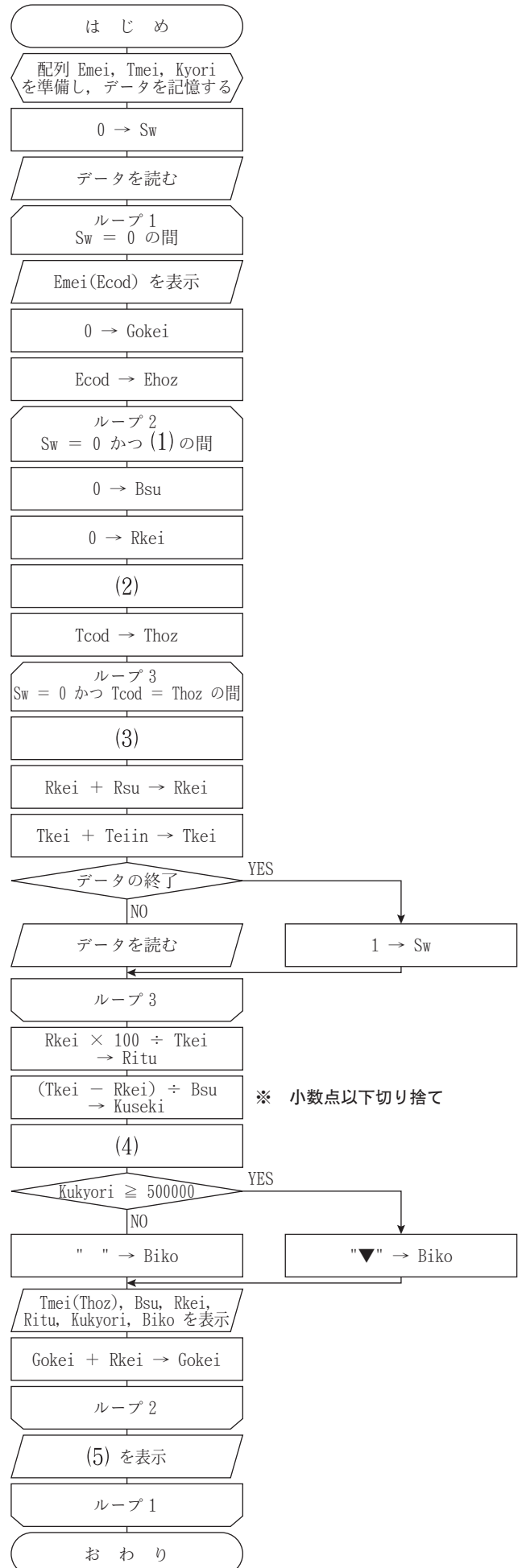
- エリアが変わるごとに旅客数合計を第2図のように表示する。

- データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. Ecod = Ehoz
 イ. 0 → Kuseki
 ウ. Kuseki × Kyori(Thoz) → Kukyori
 エ. Ecod ≠ Ehoz
 オ. Rkei
 カ. 0 → Tkei
 キ. Gokei
 ク. Bsu + Rsu → Bsu
 ケ. Bsu + 1 → Bsu
 コ. Kuseki × Kyori(Tcod) → Kukyori

<流れ図>



【 6 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

複数の港湾施設を運営する会社の船舶停泊データを読み、停泊日数一覧をディスプレイに表示する。

入力データ

日時 (Nji)	港コード (Mcode)	停泊日数 (Tnisu)	船舶重量 (千トン) (Sju)
××××	××	××	×××

(第 1 図)

実行結果

(停泊日数一覧) (港名) (総停泊日数計)		(重量区分名と停泊日数計)			
新小樽みなと	425日	8～12千トン未満 92日	12～16千トン未満 88日	～ 0～4千トン未満 17日	40千トン以上 8日
南長崎ふ頭	381日	4～8千トン未満 85日	8～12千トン未満 74日	～ 20～40千トン未満 9日	
合 計	3,895日	8～12千トン未満 982日	4～8千トン未満 769日	～ 16～20千トン未満 251日	40千トン以上 31日

(第 2 図)

処理条件

1. 配列 Mmei に港名を記憶する。なお、第 1 図の港コードは 1～10 であり、Mmei の添字と対応している。

配列

Mmei
(0)
(1) 新小樽みなと
}
(10) 南長崎ふ頭

2. 配列 Jkubun に重量区分を判定する値、配列 Jmei に重量区分名を記憶する。なお、第 1 図の船舶重量 (千トン) は 999 未満である。また、Jkubun と Jmei の添字は対応している。

配列

Jkubun	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
		4	8	～	40	999

Jmei	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
		0～4千トン未満	4～8千トン未満	～	20～40千トン未満	40千トン以上

3. 第 1 図の入力データを読み、船舶重量 (千トン) をもとに配列 Jkubun を探索し、配列 Nkei に停泊日数を集計する。なお、0 列目には総停泊日数計を、11 行目には重量区分ごとの合計を求める。また、Nkei の行方向の添字は港コードと、列方向の添字は Jkubun の添字と対応している。

配列

Nkei	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
(0)				～		
(1)				～		
}	}	}	}	}	}	}
(10)				～		
(11)				～		

(総停泊日数計) (合計)

4. 入力データが終了したら、総停泊日数計が 0 ではない港について、配列 Work を利用し、港ごとに停泊日数計の降順に並べ替えて、第 2 図のように表示する。なお、停泊日数計が 0 の場合、表示しない。また、合計についても同様に処理する。

配列

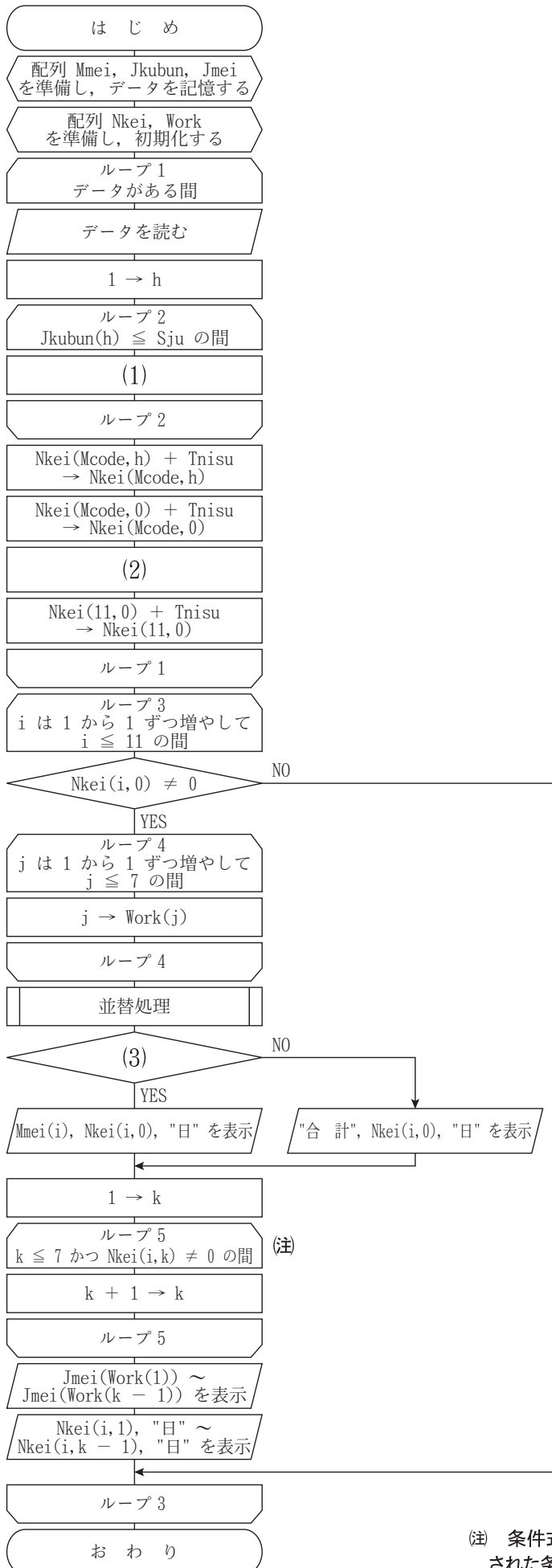
Work	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
				～		

5. データにエラーはないものとする。

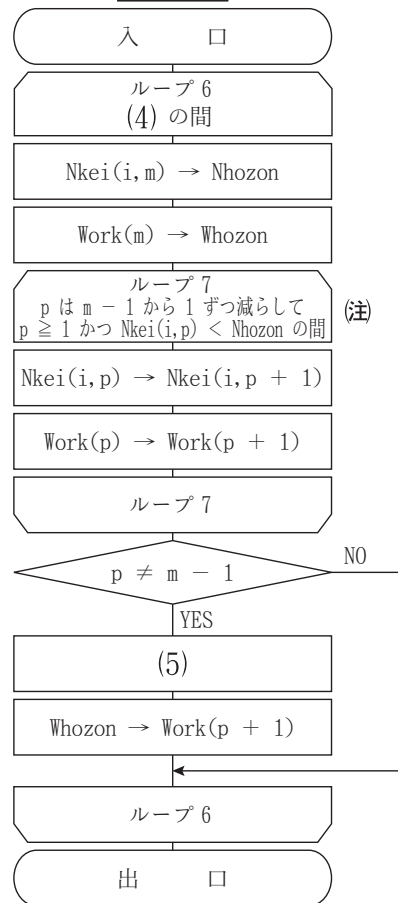
解答群

- ア. $h - 1 \rightarrow h$
- イ. $Nhozon \rightarrow Nkei(i, p + 1)$
- ウ. m は 7 から 1 ずつ減らして $m \geq 2$
- エ. $Nkei(11, h) + Tnisu \rightarrow Nkei(11, h)$
- オ. $Nhozon \rightarrow Nkei(m, p + 1)$
- カ. $i \leq 10$
- キ. $Nkei(11, h) + Nkei(Mcode, h) \rightarrow Nkei(11, h)$
- ク. m は 2 から 1 ずつ増やして $m \leq 7$
- ケ. $i < 10$
- コ. $h + 1 \rightarrow h$

< 流れ図 >



並替処理



(注) 条件式が「かつ」で複合されている場合、先に記述された条件式が偽になった時点で、判定を終了する。

【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

＜プログラムの説明＞

処理内容

映画館の1か月分の売上データを読み、指定した曜日コードの集計結果を表示する。

入力データ

売上データ（ファイル名：sales.csv）

日付 ××××	曜日コード ×	映画館コード ×	券種コード ×	性別コード ×	売上枚数 ×××
------------	------------	-------------	------------	------------	-------------

（第1図）

実行結果

曜日コード(1～7)を入力してください。→2

火曜日の売上金額【割引料金】

	(一般)		(高校生以下)		(シニア)		(合計)
(映画館名)	(男性)	(女性)	(男性)	(女性)	(男性)	(女性)	
シネマ水戸	1,114,500	3,390,000	177,600	352,800	504,000	991,000	6,529,900
}	}	}	}	}	}	}	}
シネマ横浜	1,431,000	4,389,000	231,600	445,200	644,000	1,326,000	8,466,800
(合計)	6,739,500	20,410,500	1,075,200	2,122,800	3,002,000	6,228,000	
(順位)	2	1	6	5	4	3	

曜日コード(1～7)を入力してください。→7

日曜日の売上金額【通常料金】

}

（第2図）

処理条件

1. 配列 week に曜日名を記憶する。なお、第1図の曜日コードは 1～7 であり、week の添字と対応している。

配列

week	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
		月曜日	火曜日	～	土曜日	日曜日

2. 曜日別売上情報を管理する WeekInfo クラスをインスタンス化し、配列 sales に記憶する。なお、sales と配列 week の添字は対応している。

配列

sales	(0)	(1)	(2)	～	(6)	(7)
				～		

3. 配列 cinema に映画館名を記憶する。なお、第1図の映画館コードは 1～5 であり、cinema の添字と対応している。

配列

cinema	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		シネマ水戸	シネマ大宮	シネマ千葉	シネマ渋谷	シネマ横浜

4. 配列 price に各券種の料金を記憶する。なお、第1図の券種コードは 1～3 であり、price の添字と対応している。また、曜日コードが 2 か 4 の場合は、各券種の料金から300円を値引く。

配列

price	(0)	(1)	(2)	(3)
		1800	1500	1300
		(一般)	(高校生以下)	(シニア)

5. 第1図の売上データを読み、次の処理を行う。

- ・ 売上枚数と料金から売上金額を求め、曜日ごとに配列 total に集計する。なお、total の行方向の添字は映画館コードと対応し、性別コードは 1 が男性、2 が女性である。また、曜日ごとに同映画館、同券種、同性別のデータが複数ある。
- ・ 配列 total の 7 列目に映画館ごとの売上金額の合計を求める。
- ・ 配列 total の 6 行目に券種、性別ごとの売上金額の合計を求める。

配列

total	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
(0)								
(1)								
}	}	}	}	}	}	}	}	}
(5)								
(6)								
(7)								
		(男性)	(女性)	(男性)	(女性)	(男性)	(女性)	
		(一般)	(高校生以下)	(シニア)	(合計)			

(シネマ水戸)

(シネマ横浜)

(合計)

(順位)

6. データを読み終えたあと、キーボードから曜日コードが入力されたら、配列 total の 7 行目を利用し売上金額の合計の降順に順位をつけて、第2図のようにディスプレイに表示する。なお、合計が同じ場合は同順位とする。

7. キーボードから 0 が入力されたら処理を終了する。

< J a v a プログラム >

```
//クラスWeekInfo
public class WeekInfo {
    private static String[] cinema = { "", "シネマ水戸", "シネマ大宮", "シネマ千葉", "シネマ渋谷", "シネマ横浜" };
    private String week, str = "通常";
    private int[] price = { 0, 1800, 1500, 1300 };
    private int[][] total = new int[8][8];
    private boolean flag = true;
    public WeekInfo(String week) {
        this.week = week;
    }
    public WeekInfo(String week, int discount) {
        this.week = week;
        str = "割引";
        for(int i = 1; i < price.length; i++) {
            price[i] -= discount;
        }
    }
    public void addSales(int cCode, int tCode, int gCode, int quantity) {
        int calc = quantity * price[tCode];
        int idx = (tCode - 1) * 2 + gCode;
        (1);
        total[cCode][7] += calc;
        total[6][idx] += calc;
    }
    public void printSales() {
        if(flag) {
            for(int i = 1; i <= 6; i++) {
                (2);
            }
            ranking();
            flag = false;
        }
        System.out.println(week + "の売上金額【" + str + "料金】");
        int idx = 7;
        for(int j = 1; j <= 7; j++) {
            if(j <= 5) {
                System.out.print("¥t" + (3));
            } else {
                System.out.print("¥t");
                idx = 6;
            }
            for(int k = 1; k <= idx; k++) {
                System.out.printf(" %10d", total[j][k]);
            }
            System.out.println();
        }
    }
    private void ranking() {
        for(int j = 1; j <= 5; j++) {
            for(int (4); k++) {
                if(total[6][j] < total[6][k]) {
                    total[7][j] += 1;
                } else if(total[6][j] > total[6][k]) {
                    total[7][k] += 1;
                }
            }
        }
    }
}

//クラスCinemaSales
import java.io.BufferedReader;

public class CinemaSales {
    private static String[] week = { "", "月曜日", "火曜日", "水曜日", "木曜日", "金曜日", "土曜日", "日曜日" };
    private static WeekInfo[] sales = new WeekInfo[8];
    public static void main(String[] args) {
        try {
            for(int i = 1; i < sales.length; i++) {
                if(i == 2 || i == 4) {
                    sales[i] = new WeekInfo(week[i], 300);
                } else {
                    sales[i] = new WeekInfo((5));
                }
            }
            BufferedReader fileIn = new BufferedReader(new FileReader("sales.csv"));
            String line;
            while((line = fileIn.readLine()) != null) {
                String[] str = line.split(",");
                int wCode = Integer.parseInt(str[1]);
                int cCode = Integer.parseInt(str[2]);
                int tCode = Integer.parseInt(str[3]);
                int gCode = Integer.parseInt(str[4]);
                int quantity = Integer.parseInt(str[5]);
                sales[wCode].addSales(cCode, tCode, gCode, quantity);
            }
            fileIn.close();
        } catch(Exception e) {
            System.out.println("エラーが発生しました" + e);
        }
        Scanner keyboardIn = new Scanner(System.in);
        System.out.print("曜日コード(1~7)を入力してください。→");
        int code = keyboardIn.nextInt();
        while(code != 0) {
            sales[code].printSales();
            System.out.print("曜日コード(1~7)を入力してください。→");
            code = keyboardIn.nextInt();
        }
        keyboardIn.close();
    }
}
```


＜プログラムの説明＞

テニス講習会の使用ラケット調査データを読み、受講者集計と区分別メーカー順位表を表示する。

調査データ（ファイル名：racket.csv）

受講者番号 ××××××	経験年数 ××	メーカー番号 ×
-----------------	------------	-------------

(第 1 図)

ユーザーフォーム・実行結果

受講者集計					
	小学生	中学生	高校生	一 般	総 計
人数計	321	575	382	315	1,593
平均経験年数	2.0	3.6	5.3	6.5	4.3

(Label1)

☐ 区分
 ☐ 小学生
 ☒ 中学生
 ☒ 高校生
 ☒ 一 般
 ☒ 総 計

☐ (CheckBox1)
 ☒ (CheckBox2)
 ☒ (CheckBox3)
 ☒ (CheckBox4)
 ☒ (CheckBox5)

区分別メーカー順位表					
	中学生	高校生	一 般	総 計	
A 社	192人 1位	45人 4位	79人 2位	476人 1位	
＼	＼	＼	＼	＼	＼
F 社	105人 3位	126人 2位	34人 5位	361人 2位	

(Label2)

(第2図)

1. 第1図の受講者番号は、次の例のように構成されている。なお、区分番号は1（小学生）～4（一般）であり、各区分1名以上受講するものとする。

例 1 0 3 1 4 → 1 0 3 1 4
講習会番号 区分番号 整理番号

2. 第1図のメーカー番号は 1 (A 社) ~6 (F 社) である。
3. ユーザーフォーム初期化時に、次の処理を行う。
 - ・ 配列 Kubun に区分名を記憶する。なお、Kubun の添字は区分番号と対応している。また、Kubun(5) には 総 計 を記憶する。

Kubun	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		小学生	中学生	高校生	一般	総計

- 第 1 図の調査データを読み、人数を配列 Kei に集計する。なお、5 列目には総計を、7 行目には人数計を、8 行目には経過年数計を求める。また、Kei の行方向の添字はメーカー番号と、列方向の添字は区分番号と対応している。

Kei	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
(0)							
(1)							(A社)
}	}	}	}	}	}	}	}
(6)							(F社)
(7)							(人数計)
(8)							(経験年数計)
							(総計)

4. 第2図の区分 (CheckBox1~5) にチェックを入れると 1 を, チェックをはずすと 0 を, 配列 Check(1)~(5) に記憶する。
なお, Check と配列 Kubun の添字は対応している。

Check	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

5. 第 2 図のように区分を指定し、「表示」ボタンをクリックすると次の処理を行う。
- 配列 Jun を利用して該当する区分ごとに人数の降順に順位をつける。なお、人数が同じ場合は同順位とする。また、Jun と配列 Kei の添字は対応している。

Jun	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
(0)						
(1)						
λ	λ	λ	λ	λ	λ	λ
(6)						

- 第2図のように指定した区分について Label2 に表示する。

< マクロ言語プログラム >

```
Option Explicit
Dim Kubun(5) As String, Check(5) As Long, Jun(6, 5) As Long, Kei(8, 5) As Long
```

```
Private Sub UserForm_Initialize()
    Dim h As Long, i As Long, j As Long, Jban As String, Knen As Long, Mban As Long, Kban As Long, ~ Heikin As Single
    Kubun(1) = "小学生": Kubun(2) = "中学生": Kubun(3) = "高校生": Kubun(4) = "一 般": Kubun(5) = "総 計"
    CheckBox1.Value = True: CheckBox2.Value = True: CheckBox3.Value = True: CheckBox4.Value = True: CheckBox5.Value = True
    Label1.Caption = "": Label2.Caption = ""
    For h = 1 To 5
        Check(h) = 1
    Next h
    For i = 1 To 6
        For j = 1 To 5
            (1)
        Next j
    Next i
    Open ThisWorkbook.Path & "¥racket.csv" For Input As #1
    Do While Not EOF(1)
        Input #1, Jban, Knen, Mban
        Kban = Val(Mid(Jban, 3, 1))
        (2)
        Kei(Mban, 5) = Kei(Mban, 5) + 1
        Kei(7, Kban) = Kei(7, Kban) + 1
        Kei(8, Kban) = Kei(8, Kban) + Knen
        Kei(7, 5) = Kei(7, 5) + 1
        Kei(8, 5) = Kei(8, 5) + Knen
    Loop
    Close #1
    For k = 1 To 5
        Label1.Caption = Label1.Caption & "   " & Format(Format(Kei(7, k), "#,##0"), "#####")
    Next k
    Label1.Caption = Label1.Caption & Chr(13) & Chr(10)
    For m = 1 To 5
        Heikin = Kei(8, m) / Kei(7, m)
        Label1.Caption = Label1.Caption & "   " & Format(Format(Heikin, "#0.0"), "###")
    Next m
End Sub
```

```
Private Sub 表示_Click()
    Dim n As Long, p As Long, r As Long, s As Long, t As Long
    Label2.Caption = ""
    For n = 1 To 5
        If Check(n) = 1 Then
            If Jun(0, n) = 0 Then
                For p = 1 To 5
                    For (3)
                        If Kei(p, n) < Kei(r, n) Then
                            Jun(p, n) = Jun(p, n) + 1
                        ElseIf Kei(p, n) > Kei(r, n) Then
                            Jun(r, n) = Jun(r, n) + 1
                        End If
                    Next r
                Next p
                Jun(0, n) = 1
            End If
            Label2.Caption = Label2.Caption & "   " & (4)
        End If
    Next n
    For s = 1 To 6
        Label2.Caption = Label2.Caption & Chr(13) & Chr(10) & "   "
        For t = 1 To 5
            If Check(t) = 1 Then
                Label2.Caption = Label2.Caption & "   " & Format(Format((5), "##0"), "###") & "人 " & Jun(s, t) & "位"
            End If
        Next t
    Next s
End Sub
```

```
Private Sub 終了_Click()
    End
End Sub
```

```
Private Sub CheckBox1_Click()
    If CheckBox1.Value Then
        Check(1) = 1
    Else
        Check(1) = 0
    End If
End Sub
```

```
}
```

```
Private Sub CheckBox5_Click()
    If CheckBox5.Value Then
        Check(5) = 1
    Else
        Check(5) = 0
    End If
End Sub
```

(注) 使用例 Format(Format(1234.5, "###,##0.0"), "#####")

└─▶ 「1,234.5」
└─▶ 「 1,234.5」

(平成28年 1 月31日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成27年度（第54回）情報処理検定試験プログラミング部門 第1級
解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5

【2】

1	2	3	4	5

【3】

1	2	3	4	5

小 計

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

小 計

..... [J a v a] ・ [マ ク ロ 言 語]

【7】

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語		小 計	合 計
		J a v a	マ ク ロ 言 語		

選択言語を で囲むこと

(平成28年 1 月31日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成27年度（第54回）情報処理検定試験プログラミング部門 第1級
審 査 基 準

【1】

1	2	3	4	5
エ	ク	シ	コ	ウ

各2点
計10点

【2】

1	2	3	4	5
ケ	イ	オ	ア	キ

各2点
計10点

【3】

1	2	3	4	5
イ	ウ	ア	イ	ア

各2点
計10点

小 計
30

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
オ	ア	ウ	エ	イ

各3点
計15点

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ア	カ	ケ	ウ	キ

各3点
計15点

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
コ	エ	カ	ク	イ

各3点
計15点

小 計
45

..... [J a v a] ・ [マクロ言語]

[J a v a] (注) =, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	t o t a l [c C o d e] [i d x] + = c a l c
(2)	t o t a l [7] [i] = 1
(3)	c i n e m a [j]
(4)	k = j + 1 ; k < = 6
(5)	w e e k [i]

[マクロ言語] (注) 大文字, 小文字および=, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	J u n (i , j) = 1
(2)	K e i (M b a n , K b a n) = K e i (M b a n , K b a n) + 1
(3)	r = p + 1 T o 6
(4)	K u b u n (n)
(5)	K e i (s , t)

各5点 計25点

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語		小 計	合 計
		J a v a	マクロ言語	25	100

選択言語を で囲むこと